



TITLE:

社會問題と國民的性格

AUTHOR(S):

石川, 興二

CITATION:

石川, 興二. 社會問題と國民的性格. 經濟論叢 1939, 49(2): 296-313

ISSUE DATE:

1939-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131286>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京 叢論濟經

經濟叢論 每月一日發行
 第四十九卷第二號 昭和十四年八月一日發行
 大正四年六月二十一日第三號發售處可

號二第 卷九十四第

月八年四十和昭

論叢

近世初期の經濟思想……………經濟學博士 本庄榮治郎
 利子動態說について……………文學博士 高田保馬
 社會問題と國民的性格……………經濟學博士 石川興二

時論

小賣免許制の諸問題……………經濟學博士 谷口吉彥

研究

貨幣數量說の動學化としての期間分析……………經濟學士 青山秀夫
 英國の相續稅……………經濟學士 三谷道麿

說苑

京都信用保證協會の設立……………經濟學士 田杉競
 北京民衆の家計……………經濟學士 菊田太郎

附錄

彙報
 外國雜誌論題

(禁轉載)

社會問題と國民的性格

石川 興 二

一

これまでの人類の永い歴史は、偉大な精神的並に物質的な力を人類の爲めに用意した。而も人類の大部分は今日尚ほ人間としての生活を享け得ない。こゝに今日の人類にとつての最大なる人生問題が存在する。この原因を究明しこの原因を除去し以て全人類の生活を高めると云ふことは、今日の人類全體にとつての最大關心事である。この原因は種々なる點に求められるのであるが、これを「社會」なるものゝ本質的構造の中に求めることによつて、社會問題なるものが成立する。この社會問題を解決すると云ふことはこの原因を究明しこれを除去し以て人類の精神的並に物質的な力をして眞に人類の生活を高め得るところのものたらしめることである。

新な優れた經濟學は、孰れもその當時に於ける社會問題に直面し、これを解決せんとする眞剣な努力の中より生れ出でたるものである。このことは學史上の事實の示めすところであつて、各國の國民的性格なるものはこの努力を通じて、その經濟學の性格となつて現れてゐるのである。

二

社會問題なるものは、「社會」なるものゝ本質より起るものである。故に、共同體なるものが確立して居ること

るに於ては起り得ない。これ共同體なるものゝ本質は、そこに於て總ての人々の生命が重んぜられると共に、總ての人々は自己の生命を全體の爲めに盡すところのものなるが故である¹⁾。

人間的存在の初めには、かくの如き共同體なるものが、自然本能的なものとして存在してゐたと考へられる。それは個と全とが未分前の統一にあつた段階であつて、個は全の爲めに自己を盡すことを職分すると共に全は個の爲めに自己を盡した。故に一人の成員が傷けられるならば、それは全が傷けられたものとして、總ての成員はこの爲めに立つたのである。か弱き人間の生命は、かくの如き共同體的構成に於てはじめて育ち得たのである。このことは今日に於ても、或意味に於て見られ得る。即ち新に生れ出でたか弱き生命は、今日と雖も家庭の共同體的構造の中に於てはじめてはぐくまれるのである。この意味に於て、今日に於ても人間的生命は共同體的に發足してゐる。

人間的生命の出發點を嘗て形成したところの原始共同體並に今日尙ほ形成して居るところの家族共同體なるものは、血族的な共同體である。換言すれば民族的な共同體である。この共同體的構成の強い限りそこには社會問題なるものは見られない。然るにこの構造が弛んで來た時、こゝに社會的階級對立が現はれはじめ社會問題が起つて來る。

階級なるものが社會問題の根底となる所以は、それがその社會に生れ出する人々の運命を先天的に區別し決定するが故である。この階級的差別の基礎となるものには、自然的なものとなつたものと人爲的なものがある。自然的なものには、男女の性別、同一社會に於ける人間の人種的相違等がある。人爲的なものは可變的なものであつて、各

1) 拙稿『日本經濟學の根本原理』(本誌前號)參照

時代の社會は優者階級と劣者階級とを別つ原理をその時代の意識によつて異にするのである。それはその社會の主要な關心を充たすところのものである。即ち古代に於ては、原始共同體との聯關に於て尙ほ民族的感情が一般に支配的であるが故に優者階級と劣者階級とを決定するところのものは、民族的原理である。古代の末期に至つてこの感情が一般に弱くなるならば、この古代的秩序は混亂せざるを得ない。この混亂せる社會に秩序を打立て得る新たな原理は武力であつて、この武力によつて外的強制的な秩序が打立てられ武士が優者階級となる。この外的秩序の確立の下に於て個々人が次第に自覺し來りその自發的な活動が次第に高まり來るならば、こゝに個人的自由主義の社會が次第に實現し來り權力的強制的な支配原理に對する反抗が高まり來る。中世の權力的統制主義に打克つた個人的自由主義の社會に於ては一切が個人の自由に委せられ個々人の自由なる活動が人々の運命を決定し階級的な力は一應解消せしかに見えた。而もまた新たな階級的原理が現れるのである。

かくの如く社會階級なるものは、社會の人々の運命を先天的に決定するものではあるが、而もそれ自體としては未だ強き相互對立的反撥的なものではない。それが有限なるものゝ分割問題に結ばる時、はじめて對立的反撥的鬭争的な力となるのである。然らばこの有限なるものは何であるか。

人間はその生活に於て多くの物的條件を要する。それは物が物として人間生活に役立つところの性質である。例へば單に衣食住のみならず醫療についても教育についても其他の文化生活についても多くの物的條件を要して而もその量は人間生活の進歩と共に増大する。この物的條件の大部分のものはその存在量が人間の需要に對して有限的なものである。この有限性には、その存在量が絶対に有限的なものと人爲により増大し得られるも一定

の限度に限界されるものとの別がある。前者の主なるものは土地等本來自然的に存在せる物である。後者の存在量の限定性は、これを生産する爲めに要するところのものゝ限定性に依存する。即ちそれは勞働人口數の限定性と勞働の犠牲性、並に勞働がそれに働きかけるところの自然の限定性とこの自然の性質としての生産力の遞減性、更に生産手段の限定性に於て存する。¹⁾

かくて人間生活に要する物的諸條件の存在量が限定性を有するのみならず、この有限的な物的價値の享受自體が更にその本質上有限性を有する。即ち精神的價値なるものはそれ自體としては無限に享受し得る本質を有するものであるが、物的價値は、その本質上有限的にのみ享受し得られるものである。このことは衣食住等については云ふまでもないのであるが所謂文化財なるものについても同様である。例へば學問的な價値自體の享受は、時間的にもまた享受者の數についても本質上無限なものであるが、これを表現する物として役立つて居るところの書物の享受は時間的にも享受者の數についても極めて限定されたところのものである。かく物が物として人間生活に役立つところの物的價値の享受なるものは總て有限性を有する。この物的價値の享受の有限性は一社會に於ける物的價値の存在量の有限性と結ばれて社會問題の重要な基底となる。即ちその社會に何等かの意味に於て、優者階級と劣者階級との別の存する限り、物的價値の享受は優者階級に偏することゝなるが故である。²⁾

更に經濟的な生産勞働なるものは、精神的勞働が精神の活動を主とするものであつてそれ自身人間の本質的な生活であること異なり、肉體の勞働を主とするものであつて人間の本質的な生活の爲めの時間並に精力の犠牲である。³⁾ 故に、その社會に於て優者階級と劣者階級との別のある限り、物的價値の享受が優者階級に偏すると反

- 1) この限定性を究明しその範圍を擴大することが經濟學の生産論の主要な内容となる
- 2) この物的價値の有限性に基く分配の問題並に次に述べる物的勞働の負擔の問題が經濟學の分配論の内容となる
- 3) 前掲拙稿參照

對に、經濟的生產勞働の犠牲は劣者階級に偏せざるを得ないのである。

かくて一社會に於ける優者階級と劣者階級との階級的差別は、物的諸條件の享受が有産者階級に偏在することゝ物的勞働が劣者階級に偏在することによつて、經濟的な階級的差別となつて對立的反撥的本質をもつて現れ且つ固定化することゝなる。この階級の經濟的固定化は更に諸種の階級的差別を固定化することとなる。

古代社會に於て優者階級と劣者階級とを分つたものは氏族の原理であつて、その高きものは政治上に於ても重要な地位をも占めるのであるが、かくて多くの土地に對する支配をも自己の手に收め、遂にこの所有地に不輸不入の權を確立し以てこれを莊園となすに至るのである。かくて一度氏の高きもの又はこれに接近せるものが莊園を有するに至れば、その保護の下に立たんとするものによつてその莊園は益々増大せしめられることゝなる。こゝに古代社會に於ける本來優劣を決定せし氏族の原理は經濟的原理と結合して、こゝに有産者階級無産者階級の對立が進展して行くことゝなる。かくて古代社會はその没落的構造に進み入るのである。

莊園なるものは不輸不入をその本質とするものなるが故に、それは國中國を成すものである。依つてその範圍が擴大するに伴ふて一國內の秩序は、愈々紛亂せざるを得ない。かくて紛亂するに至れる一國內に秩序を與へる力は、武力より外あり得ない。武力が外的強制的な力として働くことによつてこゝにはじめて外的強制的な秩序が確立したのであつて、これが即ち中世の封建社會である。この封建社會に於ては、本來支配的な力は武力である。武力の強きものはその弱きものを従へてこゝに封建的秩序が成立したのである。戰國時代なるものはこの武力の赤裸々に鬭争せし時代である。然しこの戰國的鬭争が統一せられてそこに武力的秩序が一度確立するに至る

ならば、この武力的秩序は經濟的秩序にまで發展し經濟的階級を確立することとなる。即ち武人は各々封祿を賜はり、この封祿は世襲的なものとなる。この武士階級以外のものは被支配者階級としてこれに隸屬する地位に立つこととなる。かくて武力的秩序は今や經濟的階級差別となつて固定化するに至つたのであるがそれは單に經濟的秩序なるのみならず政治教育等の階級秩序となつて固定化し、他の階級に生れ出すものは政治的支配の地位にも立ち得ずまた高き教育をも受け得ないのである。

かくて今や人間の運命は階級的に固定化したのであるが、これを動搖せしむべき力は町人の間に次第に準備されるに至つた。即ち町人階級に於ける經濟的活動はこゝに次第に經濟力を蓄積しこの經濟力の餘裕は諸種の町人文化を生み出すに至つたのである。我國の國學なるものもこの町人文化として發展したのである。かくて町人階級の經濟力並に文化は、封建社會を動搖せしむるところのものとなつた。

かくて町人階級より發達し來れる個人的自由の原理は封建社會の權力的統制の原理とは兩立し得ざるところのものである。權力的統制を排除しあらゆる文化域に於て個人の自由なる活動を原理とせんとする運動は、次第に既存の封建的原理に對して高まり來つたのである。かくて所謂自由競争によつて各自の運命を決定するものと考へられた。經濟の域に於てもかくの如くに考へられたのであつて、各人は自ら有利なりと考へるところの品物を専ら生産しこれを商品として賣却しその得たる貨幣を以て自ら必要とする商品を購入して生活する。これ所謂單純なる商品生産社會である。然るにこの經濟社會が發達して「資本」なるものゝ支配力が増大するにつれて、この資本の力が各人の運命を決定する重要な力となるに至つたのである。かくて資本を有しこの資本の力によつて

生活し得るところの資本家階級なるものゝ成立する反面、資本家に自己の勞働を商品として賣却することによつてのみ生活し得る勞働者なるものが成立したのである。かゝる社會に於ては、衣食住のみならず一切の價值例へば教育、醫療に至るまでが商品として賣却されるが故に、これを購ふことの可能なるものと然らざるものとは全然その運命を異にすることゝなる。かくてこの社會に於ては廣く有産者階級と無産者階級とが區別されることとなる。即ち有産者階級に生れ出するものは自己の能力如何に拘らずその社會の生産する諸種の價值を享受することが出来が、無産者階級に生れ出するものはこの享受より排除される。

かくて一社會に於ける階級的差別は經濟的關係に結ばり經濟的階級となつて相互對立的な關係に立つこととなるのであるが、この相對立せるものは、一面に於て利害を共にし而も他面に於ては利害相反するものである。即ち對立するものは、共通の利害の基礎の上に於て利害相反するものである。この構造が強きものゝ間に於ける程對立の度合も大である。例へば地主と小作人、資本家と勞働者との間には一つは他を待たずしては存立し得ざる利害の共通と共に同一の利益を互に分つと云ふ利害の反撥が存するが故に強き對立が起るのである。

經濟的な階級對立の存在が社會問題となるが爲めには、この階級的差別を不可なりとする意識が何處にか働いて居なければならぬ。それは人類社會の發展的段階が進む程より多くの人々によつてまたより明確に意識されるところのものである。従つてまた一層強い社會問題となつて現れるのである。而してこの意識は究極に於ては、總ての人をして人間たらしめんとする共同體的精神にまで高まり行くのである。

以上は主として社會問題の本質について考察したのであるが、次に社會問題の類型について考察して見よう。

社會問題は、相對立する方向によつて、横の對立と縦の對立とに區別し得られる。前者は優者階級又は劣者階級の者の相互の對立鬭争であり、後者は優者階級と劣者階級との間の對立である。一の時代の没落期に於ては、これまでの優者階級に對し劣者階級が高まり來つて縦の對立が激化して來る。かくてこれまでの支配者階級が次第に没落し行き新時代の原理の擔當者が次第に高まり來るならば、こゝにこれ等の者相互間に對立鬭争が行はれる。これ新時代の成立期に見られるところの横の對立鬭争である。この新時代の原理の擔當者相互の争が衰へ新時代の優者階級の組織が定まると共に新時代の階級支配が確立する。これ新時代の安定期である。この時代の末期に於ては、この優者階級の支配の下にある劣者階級が次第に高まり來りこゝに縦の對立が激化し來ることとなる。かくて横の對立、安定、縦の對立が繰返へされながら時代は進展し行くのである。

社會問題は更に、その對立鬭争の場面の範圍によつて、地方的、國內的、國際的又は人類的に區別し得られる而して地方的より國民的に更に世界の一地方より全世界にまで發展し行くのである。ことに今日の社會問題の特色は國際的にまで發展せし點に存する。國際社會問題は國際社會に於ける數國が利害を同じくして相結び他の國々に對し支配的地位に於て臨みこれ等の國々を搾取するのである。それは持てる國と持たざる國との對立と云ふよりはむしろ搾取國と被搾取國との對立と云はるべきものである。例へば支那は持てる國ではあるが被搾取國なのである。この國際的社會問題は、白人が東洋に對して重商主義的侵略をはじめて以來、世界的なる構造にまで發展し、今や白人諸國を搾取階級となし有色人種諸國を被搾取階級とするところの國際社會的對立が、全世界の

構造を決定するまでに至つたのである。即ち有色人種諸國の自然並にその生産物の多くのものは、これ等に君臨せる白人諸國の爲めに用ゐられ、また白人諸國の生産物はこれ等有色人種諸國をその市場として居るのである。こゝに現代世界の一切の不安が醸製されつゝある。

こゝに二種の社會問題が起る。一つは有限なる自然富源と各國の商品に對する市場とを互に相爭ふ白人諸國の相互の横の對立である。世界大戰は英獨二國間のかゝる對立を基底として生起したところのものである。今や第二次の世界大戰は、同様にして獨伊對英佛の間に刻々準備されつゝあるのである。この國際間の横の對立鬭争は、云はゞ羊の分前を爭ふ狼の争である。この搾取的秩序の末期に於ては國內社會問題に於けると同様に壓迫國民に對する被壓迫國民の縦の對立が用意される。それは「有色人種の擡頭」と云はれるものであつて、トルコ、エジプトに於ては或程度成果を收めたところのものであり、また印度に於て續行されて居るところのものである。而も有色人種の被壓迫國民として最大なる力を有せる支那についてこの社會問題は最大の意義を有するものである。

今日の世界社會問題の複雑性は、この横の對立と同時に縦の對立が激化しつゝある點に存する。而も國際社會問題の國內社會問題に對する特色は、國內社會問題が一權力内の問題であると異なり、相異なる國家權力間の問題として國際的對立は戦争の形をとつて現れる點に存する。従つて國際社會問題の解決せざる限り人類の經濟的生産力其他一切の文化の力はこの戦争の總力的手段と化せざるを得ないのであつて、眞の人間生活は實現され得ない。かくてこの社會問題を解決し得ざる限り、人類歴史は自滅の方向に進まざるを得ないまでに立ち至つたの

である。かくて現代社會問題の特殊な構造は、國內社會問題と世界社會問題とが密接に結ばれて居る點に存する。従つて國內社會問題の眞の解決はこの世界社會問題の解決を待つてはじめて解決し得らるべきものであり、また世界社會問題の眞の解決の爲めには、國際社會問題を解決しなければならないのである。

四

以上に於て社會問題そのものを類型的に考察したのであるが、以下この社會問題に對處する仕方を類型的に考察して見よう。

これは先づ二つの型に區別し得られる。一つは社會面に即してこれに對處せんとするものであり、他は社會面を越えた原理を求めてこれに對處せんとするものである。

先づ前者について考察せんに、その第一は社會面に即し階級的差別の原理はそのまゝとして置き、その對立鬭争を社會面に即して緩和せんとするものである。即ちそれは相對立する各の階級が相互の賢明なる利己心に訴へて各の利己心が最小の勞費を以て最大に充され得る點に對立關係を調和せんとする仕方である。これは社會生活に於て最もよく訓練せられ理智的に賢明なる英國民の如きに於て最も適當するところのものである。

その地形が島國であり地勢が平坦であり暖流に惠まれて氣溫の變化少なくその住民については恰も今日のアメリカが歐洲よりの移植民を受け入れて成れるが如く大陸よりの移民を受け入れて成れる英國の國民性は極めて功利主義であり理智的打算的である。この功利主義に徹底せる英國民にあつては、最少の勞費を以て最大の効果を求める立場より、先づ上層階級が下層階級の進出に對して止むを得ない限度の讓歩をなしたまた下層階級も自己の

要求を一定の限度に止めかくて双方が各々の利益の功利主義的調和を求める。この巧妙なる功利主義的調和は英國の政治外交の上にも殖民政策の上にも現れてゐるところのものである。

the labouring poor, that is, the great body of the people「勞働せる貧困なる者即ち國民の大多數」の生活を高むることを究極目的となし、この功利主義的原理の立場に立つて中世的な權力的支配階級に對せし時こゝに英國經濟學が確立したのであつて、それはアダム・スミスによつてである。即ち彼は先づ經濟生活の本質を各人の功利主義的調和に於て見た。曰く、

「開化せる社會に於て人は絶えず非常に多くの人々の協力と援助とを要するのである。……然し其援助を單に彼等の慈悲心のみより得んと期待することは不可能である。若し自己の利益になる様に彼等の利己心を刺戟し而して自己が彼等より得んと欲するところのものを彼等が自己の爲めにしてくれることは即ち彼等の慈悲心に訴へるよりも一層よく目的を達し易い。……我々は日々の食事を屠肉者酒造者パン製造者の慈悲心に待つのではなく彼等自身の利益に對する彼等の顧慮に待つのである。……彼等に決して自分自身の必要を告げずして彼等の利益を告げるのである。」

この功利主義的調和の立場に立つて、彼が當時の權力主義的な經濟に對し實現せんとせしところのものが「自然的自由の制度」である。即ちこの制度に於ては「各人が正義の法を冒さざる限り彼自身の仕方によつて彼自身の利益を追求することもまた彼の經濟的活動並に資本を他の人及他の階級の人々のそれと競争にもたすことも完全に自由にまかされて居る」ところのものである。而してそれは經濟に對して當時行はれて居た權力的支配を廢除することによつて自ら實現するものであると考へられた。かくて英國經濟學の根本原理は單なる個人的な利己主義ではなく、各人の利己心の功利主義的調和であることを注意しなければならない。この原理に立つて中世

的支配者階級に對することによつて英國に於ては階級間の功利主義的調和の社會が實現されてゐるのである。

社會面に即して階級對立に對處せんとするものゝ第二は、被支配者階級の力によつて支配階級自體を否定せんとするものである。これ所謂階級革命である。この仕方は佛蘭西國民に於て典型的に見られる。

即ちその血がラテン的でありその自然の地位が比較的南方的である佛蘭西國民は、着實功利的な英國民と異なり、その特徴はむしろ激情的なる點にある。この佛蘭西國民に於ては社會の階級對立も英國民に於けると性質を異にし従てこの對立に處する態度も異なつた。即ち支配者階級の壓迫も激情的であると共に被支配者階級のこれに對する反抗も激情的である。こゝに佛蘭西革命に於て見られるが如き血なまぐさき革命反動が繰り返へされかくて漸くこれまでの支配者階級が否定されることゝなつたのである。即ち佛蘭西國民はその社會對立に對してかくの如き激情的な階級革命を以てしたのである。

かくの如き佛蘭西國民の階級革命に對してはじめて秀れたる學問的基礎を與へたるものは、ルッソーであり、その著書『不平等論』殊に『民約論』である。¹⁾この著書は佛蘭西革命そのものゝ理論的基礎として重要な意義を有したのである。

この階級革命なるものはこれまでの支配者階級を否定し得るも、そこに新たな支配者階級が成立つこと佛蘭西革命に於けるが如くである。かくてはこれまでの社會對立を止揚するも社會對立自體を止揚することは出来ない。ルッソーも『民約論』に於て、社會對立自體を止揚して共同體の實現を意圖したのであるが、同時にこの共同體が容易に階級社會へ墮落すべきことを注意をして居る。²⁾

1) 拙稿『共同體の人間學的考察』(本誌第四十六卷第一號)並に『民約論』に於ける共同體思想』(本誌第四十五卷第五號)參照
2) 前掲拙稿(本誌第四十五卷第五號第五四頁)參照

佛蘭西革命後の佛蘭西思想の特色は、新な被支配者階級たる第四階級の立場に於ける階級革命思想の展開であつた。サン・シモン、フーリエ、ブルードン等がそれである。而も激情的な佛蘭西國民にあつてはこれ等の思想は尙ほロマンティシユであつて十分學問的とならなかつた。このことは、近來のサンデイカリズム思想についても見られるところである。この佛蘭西國民の階級革命の立場を徹底して眞に階級的對立自體を止揚すべき學理としての發展は、被壓迫民族であり且つ最も徹底せる理智を有せるユダヤ民族の血に待たなければならなかつた。それは即ちマルクスである。マルクスがユダヤ民族の血を享けて獨逸に生れたのは一八一八年であつて、彼は佛蘭西革命の動亂が尙ほ西歐を動搖せしめつゝある中に育ひ立つたのである。ヘーゲル學派の左黨に屬せし彼は、大學に地位を得能はざることを知つて獨逸を去り佛蘭西に至つて佛蘭西の諸思想に觸れこゝに彼の根本思想を確立し得た。それは『獨佛年誌』の諸論文に於て發表され、人間を唯物的に墮落せしめた資本家的社會を無産者階級の社會革命によつて變革せんことを目的とするものである。¹⁾ 佛蘭西のロマンティシユな社會革命思想は、今やユダヤ人の徹底的な理智的頭腦を通じて所謂「空想的社會主義より科學的社會主義」への進展をはじめたのであるがこのマルクスの經濟史觀とこれに基く經濟理論『資本論』に至つて徹底した。こゝに於て資本主義社會が理論的に分析せられこの社會が無産者階級革命によつて止揚さるべき構造が明にされた。資本主義社會の階級革命はこゝに哲學的並に科學的基礎を得たのであつてそれは後にロシヤ革命に於て實行に移されるに至つたのである。

以上は孰れも社會面に即して階級的對立に處するものであるが。次にこの社會的對立面を越えた第三の原理によつてこれに處せんとするものについて述べよう。その第一は相對立する社會階級の上に強力な國家權力を置き

1) 拙稿『經濟學の認識主觀としての實踐哲學者』(本誌第三十四卷第一號)參照

この力によつて兩階級の對立を緩和し調和せしめんとする仕方である。この國家權力により社會的階級對立に對處せんとする仕方は獨逸國民に於て典型的に見られる。

即ち今日に於けるよりも更に北方より下り來つて深森と争ひ不毛の地を拓き比較的暗い北方の地に定住したゲルマン民族たる獨逸國民の特性はむしろ意志的である。従つて、英佛兩國民とは異なる仕方に於て階級對立に對處した。即ちウイルヘルム一世の下に於てビスマルクを首領とせる官僚組織による賢明且強力なる國家權力を作り、その力により相對立せる社會階級を緩和すべく努力し中等階級を維持し且つ作出することに努めた。これ所謂國家社會政策である。かくて社會政策なるものは、階級對立に對する獨逸的な仕方である。この獨逸國民に於ては、封建社會より資本主義社會への進展もこの國家の強權によつてなされたが如く、今日資本主義社會の變革期に處しても、資本家階級と勞働者階級との對立を原理的に止揚することなく、ヒットラーとこれに生死を誓ふナチス黨による強力な國家權力を先づ作りこの支配をこれに滲透せしむることによつて對處しつゝあるのである。

かくの如くこのものは社會的對立を越えた第三の原理として國家權力を求めこの立場に立てるものであるが、この立場は社會を土臺としてその上に成立して居るものなるが故に、事實上に於ては社會の階級的な力に影響されざるを得ないのである。それが優者階級によつてより多く影響されるならば、階級的支配は事實上存續することとなり、これと反對に劣者階級に支配されることとなれば階級革命の方向へ進むこととなる。かくてこの立場は階級鬭争に墮することとなる。

この立場の根本思想の典型的な表現はこれをヘーゲルに求め得る。彼は市民社會の本質を *Entzweigung* 「二分

裂」にありとなし、それが有産者階級と無産者階級との階級的對立へ發展することを以て本質となし進んでこの市民社會 *die bürgerliche Gesellschaft* の國家 *Staat* への發展を本質的なものとした¹⁾。この國家に於ては農業階級と商工業階級との上に官僚階級なるものが最高の階級として存在してゐるのである。

獨逸國民經濟學なるものは本來この根本的立場に於て成立したのであるが、この同様の立場に於て今日の獨逸の社會問題を解決せんとする努力の中に、今日の新たな獨逸經濟學が自ら生れつゝあるのである。

上述せし三つの立場の中第一のものは社會對立を云はゞ自力的にて緩和せんとするものであるに對しては、この第三の立場は社會對立を云はゞ他力的にて緩和せんとするものである。兩者共に社會對立自體を止揚せんとするものではない。この點に於ては共に不徹底なものである。第二の立場は社會對立自體を止揚せんとする意味に於て徹底せるものであるが、それは社會對立を社會對立によつて止揚せんとするものである。故にそれは佛蘭西革命、露西亞革命に於て見られるが如く反動革命を伴ひ従つて甚しく慘酷なものとなりそこに國民的精力が失はれることとなる。社會的對立を止揚し而もかくの如き慘劇を伴はざるものが第四の立場である。

第三の立場は社會的對立を越えた第三の原理を云はゞ、社會面の上に國家權力に於て求め、この立場に立つて社會的對立を緩和せんとするものであるが、第四の立場は、これを社會の根柢に即ち社會がその上に成立つて居るところの基礎としての國民共同體に求めこの立場より社會的對立自體を止揚せんとするところのものである。國家權力の働も、この立場より規定する。このものは、その國民的發展を貫いてその基礎に國民共同體を保持せつてのみはじめて可能である。

1) 拙稿『ヘーゲル市民社會論と經濟學』(本誌第三十八卷第一號)參照

英佛獨等の西歐諸國民にあつては、社會の階級對立が早くより徹底して國民的存在の本質的構造となり従つて「總てこれまでの社會の歴史は階級闘争の歴史なり」と云はれることが妥當したのであるが、日本の國民的存在に於ては社會の階級對立の基底にこの對立を越える「天皇を中心とする國民共同體」が存在し、社會の變革期に於てはこの共同體の立場より社會的對立自體が止揚されたのである。これ古代の氏族諸團體の對立の止揚に於ても、古代より中世への變革に於ても、中世より近世への變革期に於て常に見られたる根本構造である²⁾。而して今日社會問題を解決すると云ふことも現代資本主義社會の階級對立をこの共同體の立場より徹底的に止揚するより外日本的な道はあり得ないのである。このことは既に述べたが故に、こゝには詳論しない。

今日求められつゝある日本經濟學なるものも、單に日本經濟學として生れ出すべきものではなく、この現代日本の社會問題を解決せんとする眞剣な努力の中に自ら生れ出すべきものであることは以上諸國民の經濟學に見たと同様である。

五

以上は國內社會問題の解決の仕方について考へたのであるが、國際社會問題についても同様な考察がなされ得る。

今日の世界社會に於ては少數の白人諸國が大多數の世界の諸民族を壓迫し搾取して居る。白人諸國は搾取階級としてこの階級的支配の構造を何時までも保持せんとするのであるが、その仕方はその國民の世界史的地位とその國民性によつて異なる。

同じく世界社會の搾取階級たる白人諸國の中にあつても英佛は、その先進國として自らが既に獲得せしところのものを保持せんことに専念し、獨伊はその後進國としてその獲得支配の場面を擴大することに専念して居る。而して英國はその國民性よりして、それが搾取せるところの者との間の關係を處するに當つても、止むを得ざるに至れる。讓歩はこれを賢明に洞察してこれを實行し以て徒らなる紛争による自國の利益の犠牲を避け双方の利己心の功利主義的調和に基く秩序の確立に努力しつゝある。これに對し獨逸は、指導者ヒットラーの權力的支配の下に獨逸民族の世界制覇を意圖して進みつゝあるのである。

以上は國際的階級對立に對する壓迫階級の態度であるが、被壓迫民族のこれに對する態度はこの白人諸國の壓迫搾取自體を否定せんとするものである。而もこのことは我日本が明治維新に當り、白人の有色人種の殖民地化を極東の孤島に於て蹴返へせしことにはじまるのであり、更に日露戦争によつて有色諸民族全體の自覺に高めたところのものである。この意味に於て日本は今日の被壓迫民族の世界社會問題への勃興に對し重大なる責任を有するものである。而もこの世界社會問題の解決は被壓迫民族の力のみによつてはなし得るものではなく、日本の力を待つてはじめて可能なるものである。この點に於て日本は更に重大な責任を有してゐるのである。

この世界社會問題に對する日本の自覺は、最近まで極めて不十分なものであつた。即ち自國の力が次第に高まつて白人諸國に伍するを得るに至りし時には、白人同様に東亞をその搾取の對象とせんとしつゝあつたのである。かくて白人諸國と共に有色諸民族を搾取しこれ等のものを一層弱小ならしめたる結果は、世界を白人の爲めのものとなさんとする白人の聯合の力の下に自らが有色人種の最後の獨立國として否定され盡さるべきその運命を自覺し得なかつたのである。即ち有色人種たる日本の世界史的地位は、今日白人に壓迫されつゝある有色諸民

族と運命を共にするものであつて、これと共に存続しこれと共に亡ぶるより外ないのである。

かくて日本はその世界史的地位よりして有色人種を白人の壓迫搾取より解放することをその國民的使命としなければならぬのであるが、このことはまたその國民性に最も適するところのものである。階級對立を以てその本質的構造として發展し來れる白人諸國民と異なりこの對立を共同體的に止揚することを以てその本質的構造として發展し來れる日本の國民性は、弱者を壓迫搾取することではなく、強者に壓迫搾取されつゝある有色諸民族を援けてこれに對立する強者たる白人諸國を破つて進むことをこそ好むのである。

かくて今日の日本國民は、今日の世界史を變革すべき世界社會問題解決の實踐主體として立たなければならないのである。

この世界社會問題の解決の仕方、國內社會問題についてと同様に類型的に考察し得る。而も今日の世界社會問題解決の實踐主體としての日本がその重任を果さんが爲めには、その國體的自覺に基き共同體的立場に立たなければならぬ。かくて先づ自らの國內に於てその社會的對立を國民共同體的に止揚し更に東亞に於ける國際的階級社會の共同體的止揚に努力しなければならないのである。而もこの内外の努力は相即するのである。この努力により、そこに於て總ての民族がその個性を存分に發揮し得るところの國際共同體の實現がはじまるのである。今日の戰爭も日本國民にとつてはこの日本の世界史的使命の實現の爲めの必要手段としてのみ意義を有するのである。

かくて今日の日本國民がその國體の本質を明確に自覺し、この自覺に基いて國の内外の社會問題の解決に眞剣に努力する時、この努力の中より眞の日本經濟學が生れ出すのである。